平成24年7月期
第2四半期決算説明資料

SANNO

株式会社　山王

～貴金属表面処理加工分野のリーディングカンパニー

平成24年3月

- 決算概要と見通し
  - 平成24年7月期 第2四半期業績
  - 平成24年7月期　見通し
- 戦略と業務の取り組み状況について
- ご参考（会社概要等）

平成24年7月期 第2四半期　決算ハイライト

▶ 売上高：　スマホ分野が好調で大幅増収（＋646百万円）

▶ 営業利益：　203百万円と黒字化

（単位：百万円）

	H23/7 1Q･2Q	H24/7 1Q･2Q			
			対前期差異	期初計画	対計画差異
売上高	3,204	3,850	＋646	2,920	＋930
営業利益	△390	203	＋593	△55	＋258
経常利益	△409	235	＋644	△51	＋286
当期純利益	△2,244	606	＋2,850	△61	＋667

年金制度変更（確定拠出型採用）に伴う特益388百万円含む

コスト分析

▶ 原価率・販管費率ともに大幅改善

▶ 大幅増収と本体組織スリム化が影響

▶ 営業利益率5.2%

（単位：百万円）

	H23/7 1Q・2Q		H24/7 1Q・2Q		
		構成比(%)		構成比(%)	前期比(%)
売上高	3,204	100.0	3,850	100.0	＋20.1
売上原価	2,877	89.7	2,982	77.4	△12.4pt
売上総利益	326	10.1	868	22.5	＋542
販管費	717	22.3	665	17.2	△5.1pt
営業利益	△390	―	203	5.2	＋593

平成24年7月期2Q　売上高詳細

▶ 国内外共に増収、特に中国が復調

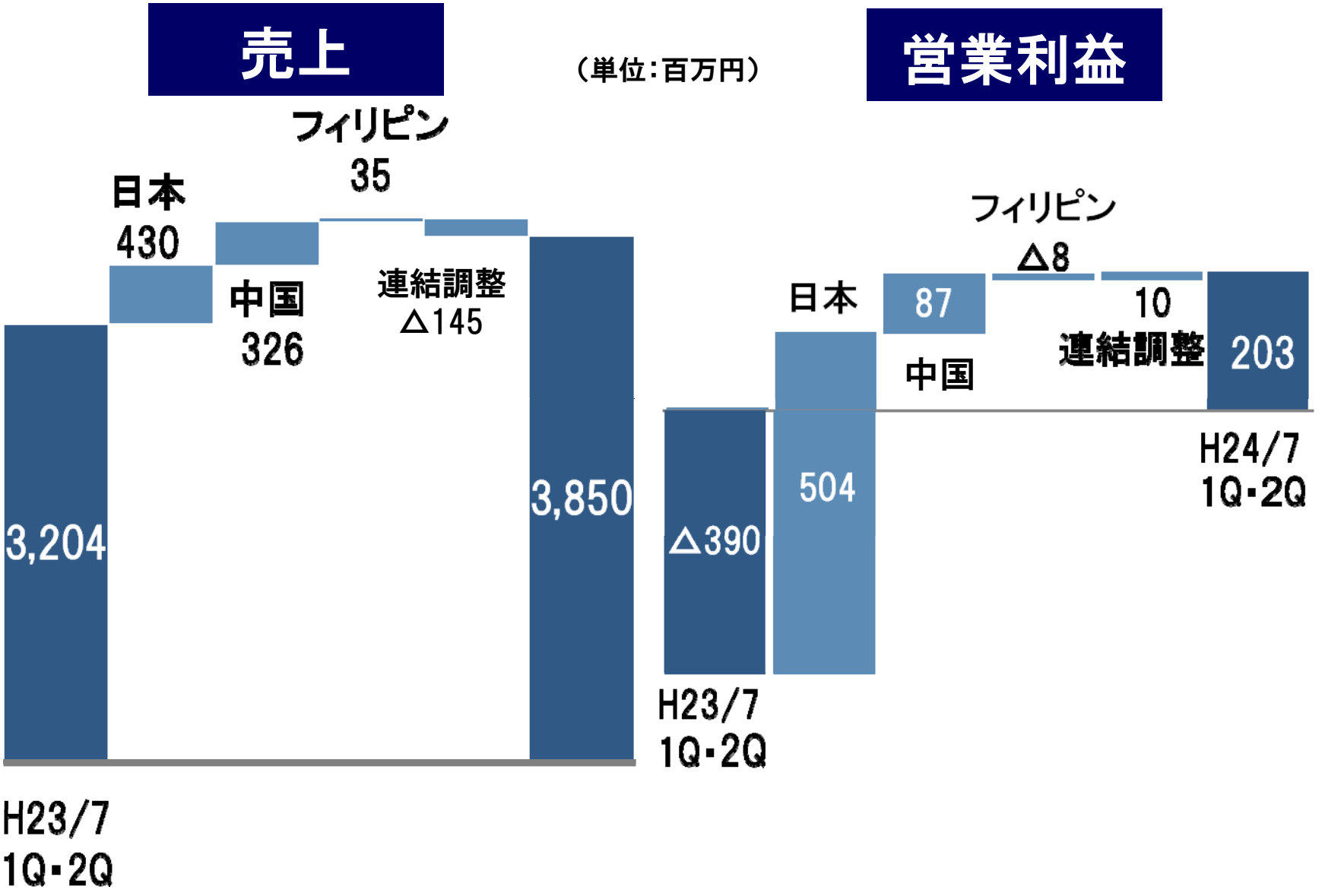
地域別売上高	H23/7 1Q･2Q		H24/7 1Q･2Q(単位:百万円)			
		構成比(%)		構成比(%)	増減額	前期比(%)
国内(＊)	2,227	69.5	2,638	66.0	＋411	＋18.4
中国	483	15.1	809	20.2	＋326	＋67.4
フィリピン	512	16.0	547	13.6	＋35	＋6.8

＊親子間取引含む、連結合計と一致せず

▶ 事業別売上高比率に大きな変化はなし

事業別売上高	H23/7 1Q･2Q		H24/7 1Q･2Q(単位:百万円)			
		構成比(%)		構成比(%)	増減額	前期比(%)
表面処理加工	2,889	89.3	3,387	88.0	＋498	＋17.2
精密プレス加工	314	10.7	463	12.0	＋149	＋47.5

地域別状況： 中国が復調


売上
（単位：百万円）
営業利益
フィリピン
35
日本
430
中国
326
連結調整
△145
3,204
3,850
H23/7
1Q・2Q
フィリピン
△8
日本
87
10
連結調整
203
中国
△390
504
H23/7
1Q・2Q
H24/7
1Q・2Q

平成24年7月期2Q業績回復の要因

▶ 国内外ともにスマホ分野向けの受注が増加

- ▶ 国内　主要顧客からの依頼が増える
- ▶ 中国　低コストでスポットめっき提供が可能で引き合い増える

▶ タイ洪水発生の結果、追加需要が発生

- ▶ 国内　タイでの生産予定分を急きょ当社で引き受けることに
- ▶ フィリピン　ベトナムなどタイ以外の生産拠点からの受注増える

▶ 営業強化策が一定の成果

- ▶ 国内 「売上の徹底追及」に効果が出始める
- ▶ フィリピン　増大する日系電子部品会社からの受注が増える

バランス・シートの状況

▶ 株主資本比率は67.7%に上昇 （前期末は61.2%）

▶ 純資産額 6,267百万円 （同上5,773百万円）

（単位：百万円）

	H23/7 末	構成比(%)	H24/7 2Q末	構成比(%)	増減額
株主資本	6,296	61.2	6,902	67.7	＋606
資本金・資本剰余金	1,832	―	1,832	―	
利益剰余金	4,519	―	5,126	―	＋606
その他の包括利益累計額	△522	―	△634	―	△112
純資産合計	5,773	56.1	6,267	61.4	＋594

キャッシュ・フローの状況

▶ 営業CF： 増収基調の下、売掛金増加による影響あり

▶ 現預金残高は、約26億円

（単位：百万円）

	H23/7・2Q末	H24/7・2Q末	増減額
現金・現金同等物期首残高	4,037	3,130	△907
営業活動キャッシュ・フロー	△70	△125	△54
投資活動キャッシュ・フロー	△89	△177	△88
フリー・キャッシュ・フロー	△160	△302	△142
財務活動キャッシュ・フロー	△292	△229	＋63
現金・現金同等物期末残高	3,493	2,558	△935

- 決算概要と見通し
  - 平成24年7月期 第2四半期業績
  - 平成24年7月期　見通し
- 戦略と業務の取り組み状況について
- ご参考（会社概要等）

最悪期は脱した足元の事業環境

① 地域

- ▶ 国内　需要は復調だが、価格競争懸念あり
- ▶ 海外　中国・フィリピンとも数量拡大続く見込み

② 顧客

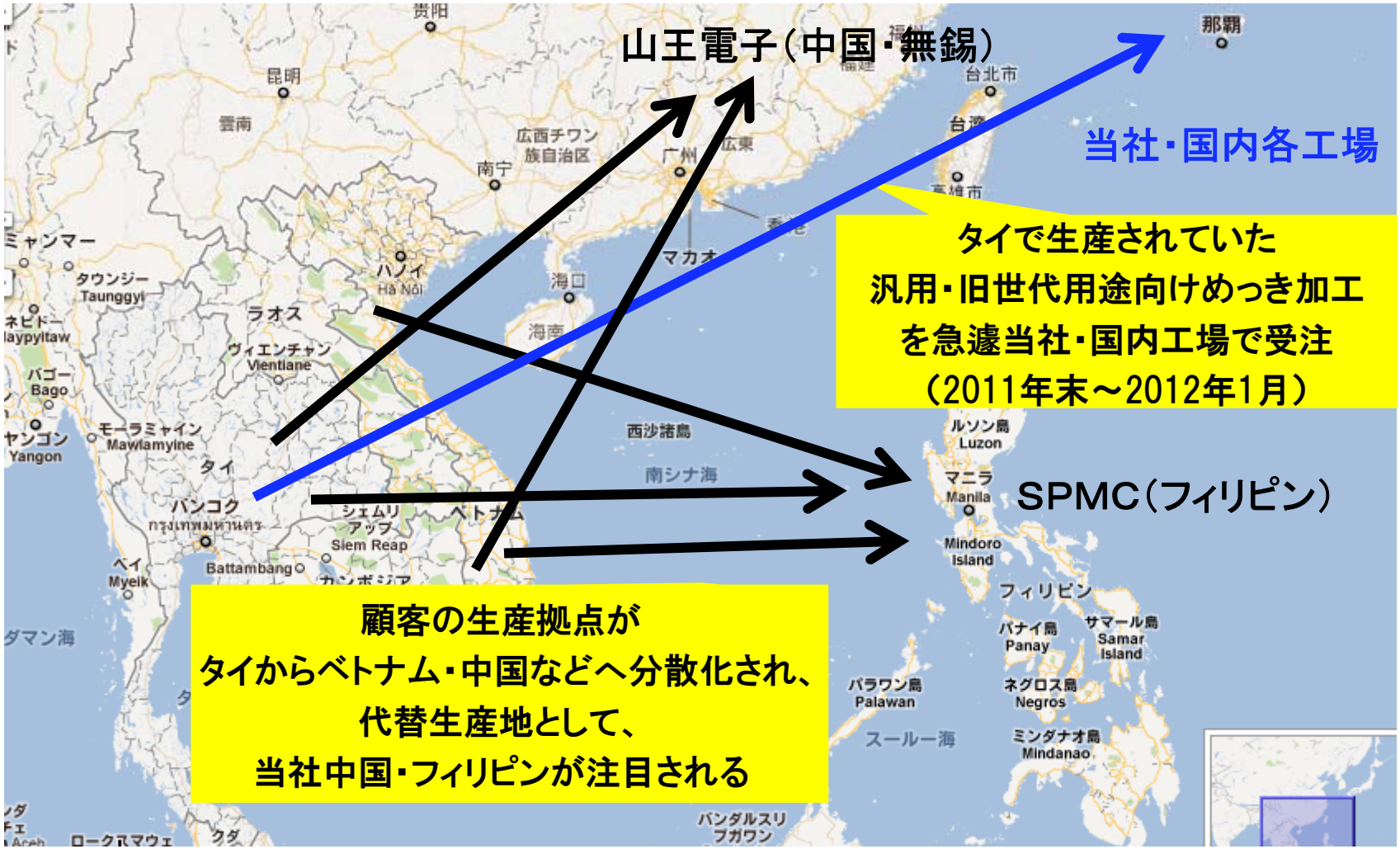
- ▶ 国内　主要顧客群とのマルチな関係変わらず
- ▶ 海外　アジア需要を取り込み日系企業との取引は増加

③ 製品

- ▶ スマートフォン・タブレット端末など先端案件は順調に拡大中
- ▶ フィーチャーフォンなど従来型も堅調

タイ洪水後に顧客の需要地域に変化

▶ 結果的に、当社生産拠点が活用される



通期業績見通しの基本的考え方

平成24年7月期第2四半期決算（実績）

国内はスマホ向け需要等が堅調で
業績は大幅に改善

海外拠点での日系企業向け、
スマホ向け対応も順調に拡大

＋

国内　**顧客との関係は復調したが、**
最終製品の価格低迷は変わらず

平成24年7月期（見通し）

通期黒字化は達成見込みだが
下期見通しは慎重に

平成24年7月期業績予想　上方修正

- ▶ 下期は上期と同程度の増収を想定
- ▶ 売上高：前期比17.4％増の74億円
- ▶ 営業利益：単価下落の懸念を見込む

（単位：百万円）

	H23/7・実績	H24/7・計画		
		修正予想（3月8日発表）	期初予想	差異
売上高	6,450	7,400	6,170	＋1,230
営業利益	△495	145	8	＋137
経常利益	△508	175	23	＋152
当期純利益	△2,541	555	2	＋553

平成24年7月期　売上高見通し詳細

▶ 全地域で増収、中国拡大で20%超へ

地域別売上高	H23/7・実績		H24/7・計画（単位：百万円）			
		構成比(%)		構成比(%)	増減額	前期比(%)
国内(＊)	4,120	67.5	4,900	63.8	＋780	＋21.8
中国	1,030	16.9	1,580	20.5	＋550	＋53.3
フィリピン	980	16.1	1,200	15.6	＋220	＋22.4

＊親子間取引含む、連結合計と一致せず

▶ 構成比率：大きな変化なし

事業別売上高	H23/7・実績		H24/7・計画（単位：百万円）			
		構成比(%)		構成比(%)	増減額	前期比(%)
表面処理加工	5,475	89.8	6,550	88.5	＋1,075	＋19.6
精密プレス加工	625	10.2	850	11.5	＋225	＋36.0

設備投資・研究開発費計画

▶ 設備投資額： 海外で生産拡大投資を実施予定

- ▶ 中国：スポットめっきライン増設、フィリピン：既存ライン改造
- ▶ 国内は従来型維持・更新投資が中心

▶ 研究開発費：効率的な開発体制を確立

（単位：百万円）

	H23/7・実績	H24/7・計画	差異	前期比
設備投資額	270	350	＋80	＋29.6
減価償却費	462	285	△177	△38.3
研究開発費	142	93	△49	△34.5

- 決算概要と見通し
  - 平成24年7月期 第2四半期業績
  - 平成24年7月期　見通し
- 戦略と業務の取り組み状況について
- ご参考（会社概要等）

「抜本的な事業構造改革」は進行中①

社内若手プロジェクトチームが具体策を検討中

業務改革推進プロジェクト

品質改善
プロジェクト

生産性向上
プロジェクト

営業力強化
プロジェクト

人事評価制度
プロジェクト

1. 具体的提言を基にした
   中長期的な経営戦略の構築
2. 社員同士が自由に意見を
   述べ合う風土への改革
3. 自己完結型組織から
   外部委託を柔軟に活用する組織へ

「抜本的な事業構造改革」は進行中②

1. 海外事業への経営資源の重点配分

東アジアの商流の変化に対応して、
既存生産拠点を強化（中国・フィリピン）

2. 成長分野での新商品開発体制の強化

「社内若手プロジェクトチーム」で検討中

3. 一貫加工体制の強化

中国・フィリピンでの体制強化を模索中

4. 生産拠点の役割の明確化と再編

国内の中長期的位置づけを明確化　→　後述

市場環境の認識： 東アジア市場に期待

当社めっき需要は東アジアにあり、
東アジアで拡大する

世界の最先端スマートフォン・タブレット端末

東アジア：最大生産地かつ最大消費地

中国･フィリピン生産拠点でのビジネス強化策

東アジアの需要をいかに取り込むか？

1. 国内からの移管案件に対し迅速に対応
2. プレスメーカーとの連携を強化
3. ローカリゼーションの深耕

中国

・スポットめっき生産ラインを増設
・スマホ対応など最新鋭の設備体制を強化
・地元資本との競合を想定し、コスト管理を一層強化

フィリピン

・日系企業の囲い込みを引き続き推進
・タイからベトナム等への生産拠点の分散化に伴い、ラインの改造・設備投資の推進も

国内： 中長期的に位置づけを明確化

「めっき加工の専業外注メーカー」として盤石の地位を確立

国内市場には下記課題あるが、現状維持の可能性も

顧客需要の減退・
生産拠点の海外移転・長期空洞化

当社の持ち味をさらに強化

「付加価値の高いめっき加工技術」

＋

コスト体質強化による価格競争力

配当政策

▶ 平成24年7月期： 未定

業績改善・回復基調の中で
内部留保を充実し、海外事業拠点の拡充など
将来の成長へ向けた資金を確保

下半期の業績動向を睨みながら
復配の検討も視野

►ご参考（会社概要その他）

会社概要：　株式会社山王（サンノウ）

表面処理加工＋精密プレス加工

事業内容	：	電子部品を対象とした貴金属表面処理加工・精密プレス加工、 金型設計・製作
創業	：	昭和33年8月
代表者	：	代表取締役社長　甲山　文成
所在地	：	本社：神奈川県横浜市港北区綱島東
資本金	：	9億6,220万円（平成23年7月末現在）
売上高（連結）	：	64億50百万円（平成23年7月期）
事業拠点	：	日本・中国・フィリピン
従業員数（連結）	：	534名（平成24年1月末現在）

当社の特徴

1. 立地のバランス

日本の他、海外かつ成長性の高いエリア（中国・フィリピン）に
生産拠点がある

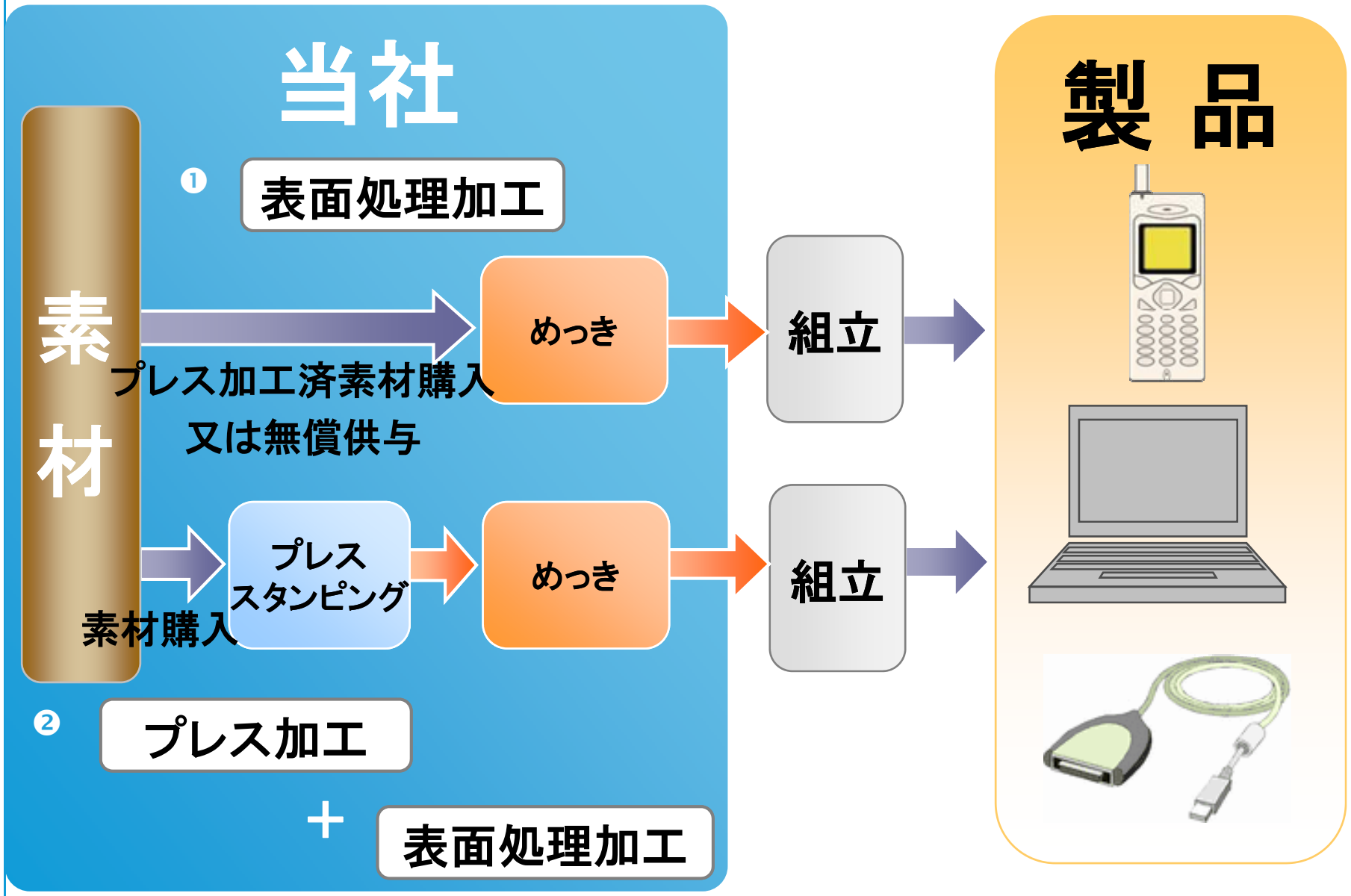
2. めっきサプライチェーン確立による付加価値の提供

プレス加工から表面処理まで一貫加工体制が確立
上流から下流まで「めっきを取り巻くサプライチェーン」が確保され
顧客からの発注を受けやすい事業構造

3. 機動的かつスリム化した組織

主要顧客のニーズを探るために、「営業と技術が一体化」

ビジネスモデル：①表面処理加工　又は
②プレス加工＋表面処理加工



当社コア技術＝表面処理が求められる理由

■ 素材（金属）の性能を高める

通電性

電子部品には、半永久的に
電気の流れが良いことが求められ、
そのため「金めっき」が施される。

耐食性

金属にはサビ（酸化）が発生。
サビには金が最も強いため、
「金めっき」が、
さらに性能向上の為に、
「後処理（防錆処理）」が施される。

半田付性

電子部品をボードに実装する場合に、
半田（鉛フリー）を活用。
その際、ピンに「金めっき」または
「半田めっき」されていると、スムーズ
かつ強固な装着が可能。

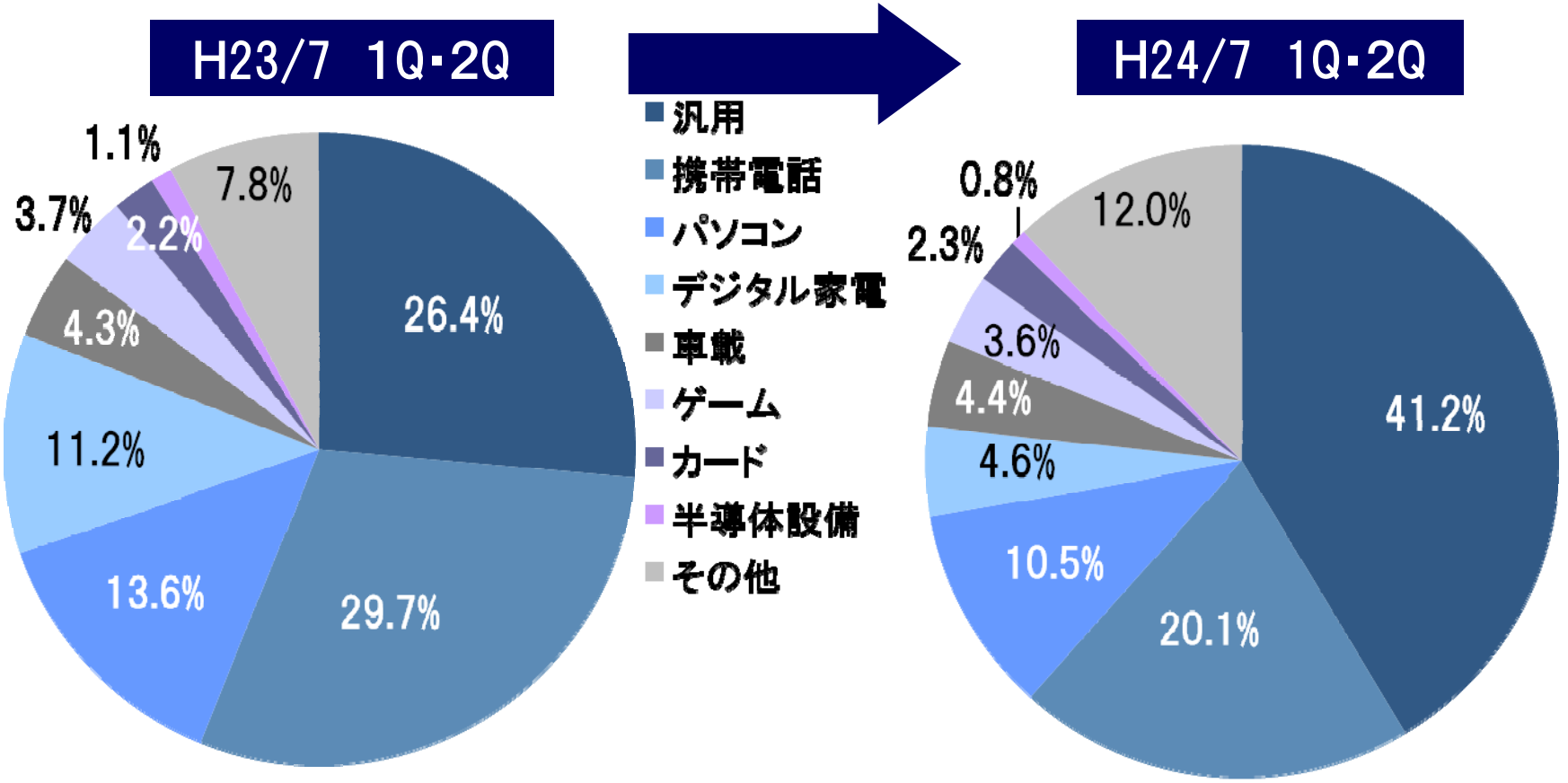
挿抜性

コネクタを接続する際に
スムーズに挿入、抜去が
できる方法として、
「金めっき」及び「後処理」が最適。

用途別売上構成の推移（国内・ご参考）

▶ 汎用品の伸び率が大きく、全体の4割を占める

テレビの販売不振が影響しデジタル家電の比率下落



中国・フィリピンに2大生産拠点

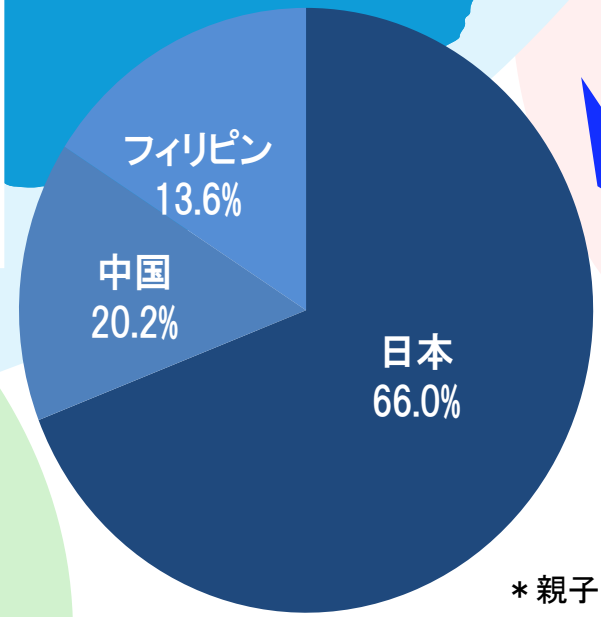
山王電子(中国・無錫)

SPMC(フィリピン)

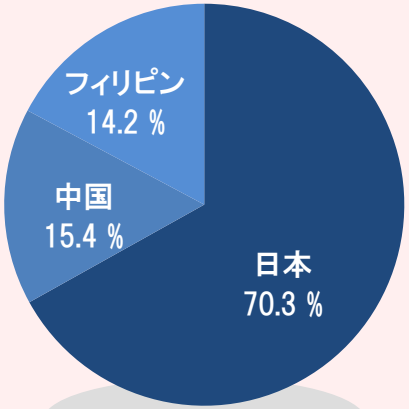
H24/7　1Q・2Q
海外売上高：33.8%

地域別生産高の内訳

H24/7・2Q期



H23/7期



＊親子間取引含む、連結合計と一致せず

本資料は、当社の事業及び業界動向について当社による現在の予定、推定、見込み又は予想に基づいた将来の展望についても言及しています。

これらの将来の展望に関する表明は、様々なリスクや不確かさが伴っています。既に知られた、もしくはいまだ知られていないリスク、不確かさその他の要因が、将来の展望に対する表明に含まれる事柄と異なる結果を引き起こさないとも限りません。当社は、将来の展望に対する表明、予想が正しいと約束することはできず、結果は将来の展望と著しく異なることもありえます。

本資料における将来の展望に関する表明は、平成24年3月22日現在において利用可能な情報に基づいて、当社により平成24年3月22日現在においてなされたものであり、将来の出来事や状況を反映して将来の展望に関するいかなる表明の記載をも更新し、変更するものではありません。

平成24年3月

株式会社山王

平成24年7月期 第2四半期決算説明資料